

開催日時	2009年6月30日(火)13:30~16:00
場 所	淀川管内河川レンジャー中央流域センター 2F 多目的ホール
参加者数	委員13名、河川管理者(指定席)11名、一般傍聴者(マスコミ含む)48名

1. 決定事項

- ・第87回委員会候補日の7月28日(火)と8月3日(月)のどちらで開催するかについては作業検討会とも関連させて運営会議で調整する。
- ・委員会意見とりまとめに向けて、次回委員会までに各分野を横断した全体的な検討を行う合同作業検討会を開催する。開催日については運営会議で調整する。

2. 報告

庶務より、前回委員会以降の会議開催経過について報告がなされた。

3. 審議の概要

1) 次期流域委員会について

次期委員会について、審議がなされた。主な意見は以下の通り(例示)。

- ・第86回委員会において、河川管理者に対して、次期委員会を空白をあげずに継続すること、第三者による委員候補推薦委員会の設置と委員公募を要望した。まずは、これらの要望について、河川管理者の考え方を聞きしたい(委員長)。

流域委員会は設置していく必要があると考えている。ただ、具体的な設置方法等についてはさまざまご意見を幅広くお聴きして決めていく。ご意見を聴く対象は、流域委員会委員、自治体、場合によっては住民の方々からもご意見を頂きたいと考えている。委員会委員には、7月中にアンケートによる意見聴取を開始する準備を進める(河川管理者)。

- ・第三者による委員候補推薦委員と委員公募についても、意見聴取の結果次第と考えているのか。流域委員会のエッセンスなので、再度お聞かせ頂きたい。

委員選定方法を含めて、いろいろなご意見を聴き、次期委員会設置の具体案をまとめたい(河川管理者)。

- ・意見を聞いた結果、委員候補推薦委員会や委員公募を行わないこともあり得るのか。ご意見によっては、必ずしも委員候補推薦委員会や委員公募によらない可能性もあると思う。公平性や中立性は踏襲して行かなくてはいけないと思っている(河川管理者)。

- ・委員候補推薦委員会は必要だ。委員の選び方によって、今後の住民参加も変わってくる。

委員候補推薦委員会や委員公募を否定しているわけではない。これまでの経験も生かしていきたい。一方で、いろいろなご意見も聴いていきたい(河川管理者)。

- ・いろいろなご意見を聴くことはよいと思うが、意見を聴き、委員候補推薦委員会を設置することになったとしても、次期委員会まで空白期間が生じてしまう。委員会が3月から次期委員会について意見を述べてきたにもかかわらず、空白期間が生じるのは、大変残念なことだ。

- ・レビュー委員会は流域委員会のやり方を高く評価している。レビュー委員会委員には河川管理者も入っており、レビュー委員会の評価が覆されると、河川管理者への信頼感が大きく傷つけられる。河川管理者には、流域委員会の取り組みが高く評価されているということ念頭において、進めていただきたい(委員長)。

2) 「淀川水系河川整備計画の計画内容の進捗点検」への委員会意見とりまとめについて

委員よりスライドを用いて説明がなされた後、審議がなされた。主な意見は以下の通り(例示)。

- ・丹生ダムについては、湯水対策容量をのせるかどうかを調査検討するだけでなく、治水についても調査検討するという位置づけなのか。

両面から実施の手前の調査検討にとどまっている(河川管理者)。

- ・指標の取り方や評価の仕方について、委員会と河川管理者の間で齟齬があるという指摘が委員からなされたが、過年度事業は、今回委員会が提案した指標や評価を前提に行われたわけではないため、当然齟齬もあるだろう。今後、委員会と河川管理者の間で一致してきたら、データや指標の取り方は改善されていくだろう。一方で、河川管理者には、今回の委員会の中間報告を検討して頂きたい。新たな作業をしてもらうということではなく、すでにあるデータを提出してもらうようお願いをするかもしれない。今回の進捗点検は試行的な取り組みであり、たとえば、統合的流域管理の視点からの評価については、委員会側にも指標や評価の枠組みを提示する上で未だ課題も多い。次期委員会以降にもキャッチボールができる進捗点検にしていきたい(委員長)。

- ・進捗点検への意見書を作成する中で、委員会はいろいろな意見を提案していくが、それ自体が委員会が事業全体について理解するプロセスでもある。意見書そのものが進捗点検のプロセスの一部であってほしい。進捗点検に関する試行報告書と委員会意見書を合わせて、今後の進捗点検に生かしていく。委員会意見書では、具体的な指摘と今後の研究課題は区別して頂きたいと思っている(河川管理者)。

- ・委員会が指摘したことが指標や評価になるような河川事業ができなければ、河川法の趣旨に則った事業になっていかないという思いが根底にある。「今はこうやっているから、これしかできない」「やれるような体制ではないので、データが出せない」ということではいけない(委員長)。
 - ・CやDに分類されている指標の中には、今回の委員会の意見書をうけて、Bに変更できるものもある。最後までCやDで対応してほしい。
- 河川管理者も「指標は物差し」と理解した上で、最も近似値になるものとして、取り組み内容や検討内を示した。そのあたりについてのアドバイスを頂き、本番に向けて取り組んでいきたいと考えている。できないからやっていないこともかなりあるので、「こうやればできる」というご意見を頂ければと思っている。一方で、時間がないため割り切っている部分もあるのでご意見を頂ければ、改善していけると思っている(河川管理者)。

3) 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて審議がなされ、「1.決定事項」の通り、スケジュールが決定した。

4. 一般傍聴者からの意見聴取

3名の一般傍聴者から意見聴取がなされ、「次期委員会についての河川管理者の説明は理解できない。誤魔化さず答えて頂きたい。水利権の見直し転用等、利水に関する河川管理者の点検報告は他人事のように書かれている。全面的に書き直してほしい」、「進捗点検に関する委員会の審議を聞いていると、次期委員会が設置されても、もたないのではないかと感じる。進捗点検に参加していない委員は次期委員会委員としては不適格だ。委員会では予算についても審議すべき」、「次期委員会に関する河川管理者の対応方針は、委員会の要望、委員会の歴史、レビュー委員会の意見を無視している。宇治川および塔の島の整備計画は検討が不十分だ。税金の無駄遣いになる過大な計画、景観を破壊する計画、住民を危険にさらす計画になっている。堤防補強や地震対策も進んでいない。対応していただきたい」といった発言がなされた。

以上

結果報告は主な決定事項等の会議結果を迅速にお知らせするために庶務から発信させていただくものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。